

114  
3207



シヤツパン、ヘラルド新聞記者ニ与フ

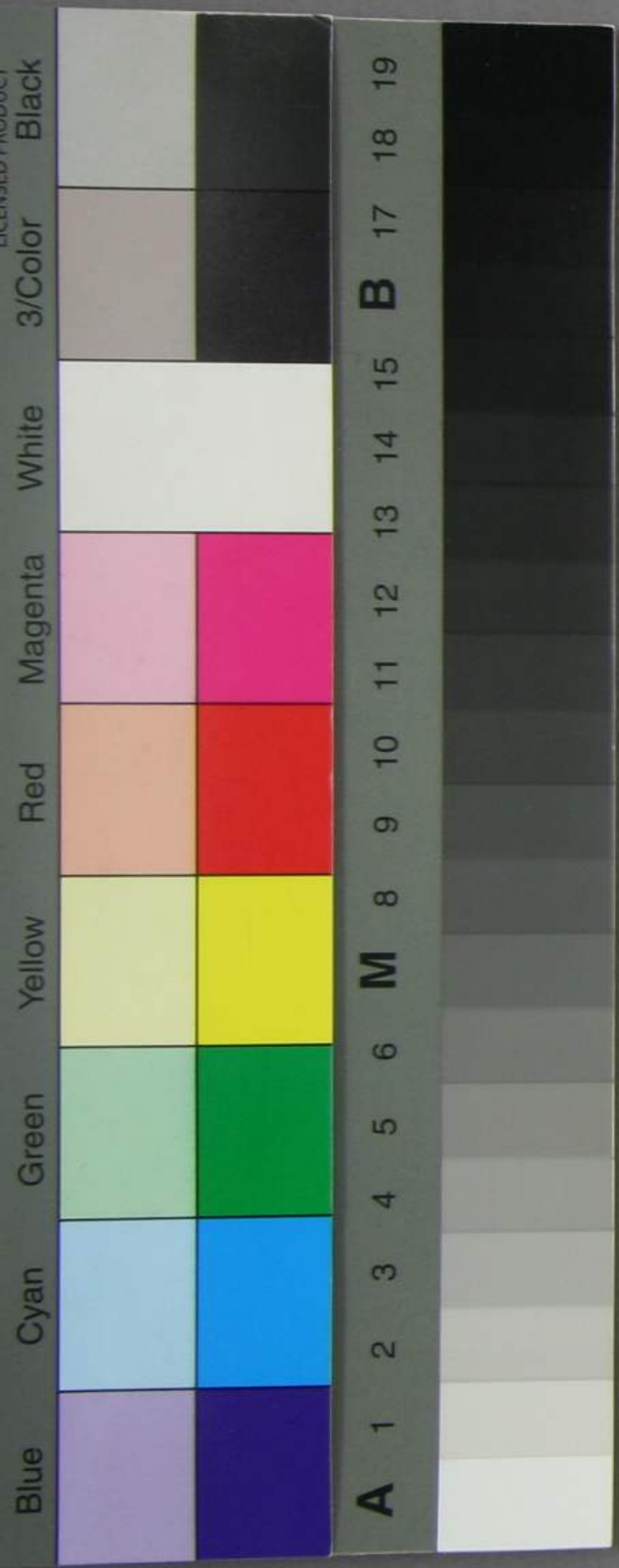
峯源次郎 託

大正十一年四月  
隈侯爵郵寄贈

余輩保護税主張者ノ平生持論スル所ノ主義ヲ見ルニ其論淺劣  
ニシテ固ヨリ取ルニ足ルベキモノナシ然ルニ保護税主張者ハ  
其確証ヲキ臆説ヲ以テ自信シテ復々疑々矜然 保護主義ヲ固執ス  
ルハ陋モ亦々甚タシカラスヤ

近頃貴社新聞ヲ閱スルニ米合衆國幾尼涅貿易ノ主意ニ付キ登  
記セラレタル論説ニ「藤田氏ノ各報丸」子「ケダ」国内勤勞

ト去クテ投書日アル見ルニ又々東京「タイム」ス新聞記者カ本月二  
十四日ノ新聞ニ於テ論スル所ヲ見ルニ共ニ保護税主義ヲ根據  
トシテ喋々開陳セラレタリ即チ其趣ハ國內ニテ産出シ得ベキ  
所ノ或ル品物ヲ外國ヨリ買ハル、ノ國ハ其外國品ノ代價ノ金



額ハ復々該國ニ當マラザルヲ以テ其金額大ニ損失ナリト云ヘ  
リ故ニ余輩今日本人ノ貴社新聞ヲ讀ムモノ、為ニ茲保護論ノ  
正邪當否ヲ審定シ論及スル所アリトス  
抑モ商賣品タル輸入物ハ其輸入セラル、國ノ產物(此產物ハ貨  
幣ヲ算入セス)ヲ以テ払フカ或ハ貨幣ヲ以テ払フベキモノタル  
コト固ヨリ理ノ當然ニシテ能ク了解シ易キモノナリ  
若シ輸入物ノ代價カ其輸入セラル、國ノ產物ナル商賣品ヲ以  
テ拂ハル、時ニハ其取扱ハ是レ則テ其双方兩國ノ各自勤勞ヨ  
リ生シタル其生産物ノ單純ナル交易ナリ而シテ該交易タル双  
方商人等ノ氣保勝手ニ任セテ政府ヨリ敢テ之レニ干涉スルナ  
ケレハ其交易ハ此度双方兩國ノ利益トナルハ疑ナキナリ若  
シ又々其雙方兩國ノ利益トナルコト無ケレハ其交易ハ永久連続  
セザルモノナリ

若シ又々其交易物ノ代價カ品物デナク貨幣ニテ払ハル、時ニ  
ハ其貨幣ハ其國ノ產物(甲)デナケレハ必テ他國ヨリ輸入セシ  
物(乙)ニテアラザルベカラス若シ其払ハレタル貨幣カ(甲)ノ場合  
ニテ自國產ノモノナルハ其貨幣ヲ輸出スルハ國家財宝ノ水  
抜ナリト云フ説ハ正論ニアラサルナリ  
夫レ開明國ノ國民タルモノハ地金(按スルニ貨幣ヲ指ス以下地  
金ト稱スルモノ悉ク貨幣ト認ス)ヲ貯フルモ流通ニ要スル額數  
ノ分ト飾物或ハ美術ニ要スル額數ノ外ニ多分ノ額數ヲ要セサ  
ルナリ而シテ其鑛山ヨリ採掘スルノ目的ハ之レヲ輸出セント  
欲スルニ過キザルナリ  
若シ又々(乙)ノ場合ニ於ケル貨幣即チ他國產ノ貨幣カ他國ヨリ  
輸入スルノコトヲ考フレハ斯ノ如キ他國貨幣ノ輸入ハ自國ノ產  
物ヲ輸出シ此輸出物ト交換ニ由ルモノナリ而シテ此他國ヨ

リ輸入セシ貨幣ニ以テ自餘ノ商品ヲ又々他國ヨリ買収スル為ニ之レヲ払ヒ出セハ乃テ此ニ至リテ全ク雙<sup>ニ</sup>勤勞ヨリ生スル產物ノ交易ヲ完成スルナリ

貴社新聞投書者ナル保護稅主張者ノ心ニハ協ハザルベケレド余輩ノ所見ニ依レハ抑モ其保護稅主義ノ誤見ハ乃チ余輩カ察知スル所ノ左ノ事項ニ累坐スルナラント思ハル、ナリ其事項ハ則テ下條ノ如シ

國內ニテ產出シ得ベキ商品ヲ外國ヨリ買入ルレハ其輸込セラル、國ノ財寶ニ水抜ヲ形成スト云フ三拘泥スルナラシ蓋此語來タル一部分ハ古昔ノ誤謬ニテ國ノ富ハ金銀蓄積ノ中ニ在リト思ヘルト又、其一部分ハ所謂貿易ノ平均ト云フ一ニ拘執ニタル誤謬ノ空想ニ由ルナリ

國家ノ殷富ハ貨幣ノ蓄積ニ由リテ其多少ヲ察スベシト云フハ

猶ホ一介人ノ富ハ其銀行ニ預ケタル實見ノ金額ニ在リト云フト一般ナルカ如キナリ

貿易上ニ於テ政府ノ方ヨリ制限モセス勸獎ヲモセス其商人ノ勝手ニ任スルハ金銀ノ運轉ハ自餘ノ商品ノ運轉ト一般ニ何レノ國ニ於テモ自カラ活發ニシテ其國ノ需要ト一致シテ供給スルモノナリ

又々貿易上ニ於テ人為ノ干涉ヲナサス自然ニ任スレハ貨幣ナルモノハ外國ニ流出スルモノニアラス但シ國民カ非常ニ貨幣ヲ需要シテ外國品ヲ購求セサルヲ得サルカ如キ場合アル片ハ此限ニ非サレド又々此貨幣ヲ得ント欲セハ自餘ノ商品ヲ需要スルヨリモ貨幣ヲ需要スルニ盛ナル片ニハ何時ニ一充分ノ供給ヲ得ベキナリ

貨幣ノ需要非常ナル片ニ從テ自然ニ輸入ヨリノ輸出ヲ増盛ス

故ニ貨幣ノ貯蓄有餘アリハ自然ニ右ノ反對ニテ輸出ヲ心メ輸  
入ヲ増盛スルモノナリ  
故ニ猶ホ又々貿易ノ平均ト云フニ付テ論スルニ平均ハ國  
ノ為ニ利益ヲ生スルトナル乎將タ國ノ為ニ不利益ヲ生スル  
トナル乎ト論シ結ムレハ如何ニモ此ノ平均ノ二字ヲ以テ其  
國貿易ノ贏輸隆替ノ分ヲ決スルハ容易ナラザル所ナリ  
貿易平均ノ語若シ其輸入(地金外ノ商品)カ輸出(地金外ノ商品)ニ  
超過スル片ニ在テハ貿易平均ハ國ノ為ニ不利益ナリ而シテ右  
ノ狀態衰ニテ輸出(地金外ノ商品)カ輸入(地金外ノ商品)ニ超過ス  
ル片ニ在テハ貿易平均ハ國ノ為ニ利益ナリ  
然レモ若シ或ル國カ外國ニ入金シタル巨多ノ金額ヲ有スルモ  
或ハ外國貿易ノ利益アル所ノ國ニシテモ猶ホ且ツ輸出ニ超過  
シタル輸入ヲ現ハスニ往々アルハ平常ノトト思ハル、ナリ又

々之レト反對シテ或ル國カ多ク外債ヲめシテ其借入レタル金  
額ヲ起業等ノ一ニ用ヒス無益ニ消靡シテ重債ヲ負ヒ右借金ノ  
元金或ハ利息ヲ拂フ為ニ或ル期間間輸入ニ超過シタル輸出ヲ  
為スニアルヤモ未タ知ルベカラス且ツ此度右様ノトアルベシ  
ト思ハル、ナリ

此ニ由リテ之レヲ觀レハ實ニ虚飾ナク有ノ俦ノ実算ヲ登記シ  
タル輸出入貿易ノ統計ハ必ラスシモ皮想ヨリテ不經濟ナリト思  
ハル、カ如ク然カルモノニ非サルナリ故ニ其實算ヲ為シ其輸  
出入ヲ數年間久シク比較シ緻密ニ分解明釈スルニ非サレハ其  
輸出入ニ就テ貿易ノ隆盛衰類ヲ論スル時ニハ却テ真理ヲ誤マ  
ルノ基トナルモ未タ知ルベカラサルナリ  
夫レ國ノ貿易ハ政府ノ干涉ニ由リテ法令ニシテ之レカ制限ヲ  
為スニナク又々政府ノ手ニ於テ奢侈ヲナシ浪費ヲ起シ為ニ差

響ヲ生スルヲナク又々其政府カ奢侈ノ浪費イルヨリシテ注々  
生スルヲアル紙幣下落ノ為メニ差響ヲ蒙ルニ非サル以上ハ  
輸出入ニ於テ過剩不足アルニ其トニ付テハ敢テ恐レ、不足ラ  
サルナリ  
若シ國民カ奢侈ニ外國ノ奢侈物ヲ買フガ為ニ其用度ヲ浪費ス  
ルヲアルカ又ハ何ノ目的モ確定セズ成果ナキ目論見事ニ入金  
スル等ノトアレハ此無分別ノ浪費上ニ於テ之レヲ制限スルノ  
時至タルハ度々自然ノ勢ナリ而シテ其最善ト称スベキ該制限  
ノ来タルヤ如何ニシテ之レカ故自然ノ制限ヲ為スカナラハ是  
レ使用スヘキ錢財ノ減縮スルヲ以テ儉約ヲ行ヒ錢財ヲ省畧セ  
サルヲ得サレハナリ此故ニ早晚右ノ制限アルハ人生ノ度々免  
カレ難キ所ナリ

世界アリシヨリ以来英國ハ其最大隆盛ノ所以ニ由リテ近年間

其巨大ナル富ニ此ニテ割合ニ非當ニ多クノ金額ヲ投シ  
テ大ニ之レヲ外國債ニ出シ且ツ其元金ノ多分ヲ諸事ニ入金シ  
又々抵當ナキ商業及ヒ工業ニ入金シテ其結果終ニ大損ヲ招キ  
タリ  
自然ノ制限ナルモノハ政府ノ法令ヲ下タシタル制限ヨリモ遙  
ニ其効績アリテ充分行届クモノナリ即チ國ノ財宝真ニ減額ス  
ルニ由テ余義ナク儉約ヲ為サバハ得サレハ奢侈ノ浪費及ヒ  
拙ナル商法上ニ自然制限ノ起ルモノナレハナリ而シテ余輩其  
輸入輸出共ニ著シク減額シ終ニ互ニ大不同ナキヲミルナリ  
然ト虽モ政府奢侈ノ費用ニ由リテ増加シタル輸入貿易ノ状況  
即チ其國ノ貨幣カ紙幣ノ下落ノ為ニ外國ハ流出スル狀況ノ慘  
状ハ猶ホ上文ノ比ニ非サルナリ日本ヨリ金銀ノ間断ナキ流出  
ハ該國ノ從法輸入貿易ノ行以ニアラサルナリ然シ是レ無益ノ

外國品ヲ政府カ買収スルハ費用ニ由ルモアルベケレ氏第一ニ  
ハ不換紙幣ノ過度ノ發行ニ職由スルモノナリ  
若シ金銀ノ外國ニ流出スルハ右ノ事項ニ由ラザリニナラハ是  
レ外國商品ニ於ケル奢侈ノ需要ニ由ルヲナレハ忽チ此奢侈ノ  
需要ヲ止メサルヲ得サルニ至ルナルベシ是レ則チ今ヤ外國  
商品ノ奢侈ノ需要流行スルハ云フ論者モアレハ一般人民ハ其  
奢侈ノ需要ヲ廢シ一方ニ向テ貨幣ヲ要シ為ニ外國商品需要上  
ニ制限ノ來タルハ忽チ掌ヲ反ヘスヨリ速カナルベシ  
貨幣ハ下落スル所ノ紙幣ト共ニ該國ニ留存シ能ハスサルカ故  
ニ貨幣ノ更ニ外國ニ輸出スル毎ニ其跡ハ常ニ紙幣ノ交換相場  
ニ於テ更ニ復タ下落ヲ生ヤサルヘカラス而シテ其紙幣下落ハ  
貨幣ノ有ラニ限リ其空虚トナルニ至ラザレハ其底止ヌル  
所ヲ知ラサルナリ

大藏卿ノ近頃ノ処分ノ結果ニ由リテ見レハ事甚タ奇怪ナルカ  
如クナレハ政府カ通用紙幣ノ償還トシテ蓄藏セシ貨幣ノ一部  
ヲ如何ニ流通ニ出タスモ其紙幣ノ相場カ並價ノ下ニ位スル間  
ハ右ノ如ク流通ニ出レタル正債ハ該國ヲ離散セカルヲ得カル  
ノ勢ナリ  
此等ノ事ヲ思考スレハ余輩ノ心ニハ國民ノ多ク思惟シタル考  
按ト又タ日本ニ於ケル外國記者ノ内ニモ多ク是認スル所ノ説  
ヲ駁スルニ足ルヘシト思ハル即チ國ノ保護税法ニ及フタル輸  
入貿易ハ國ノ財宝ニ水抜ヲ生スルヲク又タ巧ニ干渉シ手柄  
アル政府ノ制限ノ処置ニ由リテ貨幣ノ輸出ニモ損害ナク政府  
ノ心配ニ由リテ災害ヲ救ハルハト思考スル所ノ愚論ヲ排スル  
ニ足ルヘシ  
自由貿易主義ト保護稅主義トノ間ニ於テ雙方ノ議論ハ種々様

々ナレト其真ノ成果ノ論ハ到底国民カ保護税ノ勸奨ニ由リテ  
其利益少キ勤勞ノ法ヨリ利益多キ勤勞ノ法ニ轉換サレ得ル  
カ且ツ曾テ傭工ナケレト保護税法アレハ傭工ナルニキカ其如  
何ノ点ニアリ  
保護主張者ハ右ノ問題ニ向テ喋々其舌ヲ弄シ其説ヲ開陳スル  
ハ容易ニシテ敢テ難カラサルヘケレト其説ノ確証タル如何ヲ  
問ハ、漠然トシテ其答フル所ヲ知ラサルヘキナリ

又々其保護税ヲ取スル者ハ右ノ問題ニ答テ云ハン若レ或レ國  
ニ於テ資本金或ハ勤勞或ハ日給見事ノ一部分ニ保護ヲ置カ  
ハ此保護ハ則チ保護ヲ置カレサル自餘ノ事業ノ費用ヨリ出ツル  
リ以テ該國ノ工業ニ於テ人民各自ノ勉強力ヲ比較スルハ稍体面  
ヲ改ムルヲアルヤモ謀ラレテ人民一般ノ勉強力ニ至リテハサレ  
モ増益スルヲナシ

例之ハ日方ハ磅四分ノ一ノ洋布ヲ英國ヨリ二弗九拾センシト代  
ニテ輸入スルヲ得ヘシ此レ日本ニ在テハ三弗二拾センシト以下  
ニテハ製スルヲ得サルヘシ是レ則チ本国ノ製造ヲ保護スル  
為ニ三拾センシトノ保護税ヲ要スヘケレハナリ又タ先ツ思フテ  
ミルヘシ未タ製造ヲ經サル粗物ノ代價二弗ニシテ九拾センシ  
ハ外國勤勞ノ費用ニシテハ一弗二十センシトハ内國勤勞ノ費用  
ナルヘシト  
右ノ如クナルハ日本ニ於テ勤勞ノ價直カ九拾センシトヲ超過  
スルカ若レケハ超過セカリシハ保護ヲ要スルニ及ハサルヲ  
ナルヘシ、固ヨリ斯ノ如キ勤勞ノ少ナクモ保護法ニ依ラス他ノ  
方法ヲ以テ右ノ金額ニテ使用スルヲ得ヘシ即チ其物品ヲ製造  
スルヲ得ヘシ而シテ其ハ内國勤勞ヲ受シテ洋布製造トナスモ此

内國勤勞ニ由リテ得ル利益カ三拾セントヨリ多ク超過スル能ハサルハ固ヨリ論ヲ待カルナリ但シハ三拾セントハ全國人民ニ賦課セラレタル租税ノ金額ナリ故ニ保護ノ工業ハ日本ノ利益ヲ生セサルヘシ然ルニ其保護法ヲ用ヒテ其日本ノ状態ニ多ク類似セル他ノ或ル國ノ工業ヲ見倣ヒ悉ク其法ヲ模シ元金ヲ捐シ勤勞ヲ施シ目論見事ヲ為サハ國ノ為ニ大害ヲ來タスヲアルヘシ  
ヨル氏ノ論ニ送フニ其ボリチカルイコノミ山ノ昏ニ於テ此自由貿易ノ主義ヨリ格外ナリト稱スヘキノ條唯一ヶ所アリ故ニ他日別紙ニシテ其論旨ヲ登記シテ以テ余カ論ヲ終ヘント欲ス  
拜具

一千八百七十九年五月三十一日

メルカトル

シヤリゴレヘラルド新聞記者ニ送フ

余輩既ニ前日ノ昏状ニ於テヨル氏ノ論ニ送フ自由貿易論ヨリ全ク取除クニキ格外ノ論アリ云シモノハ其著昏ナルアリシハルスオブ、ボリチカルイコノミ山ノ中ヨリ引用セシモノニテ即チ次條ノ如シ

經濟ノ真理ニ於テ保護税ヲ採用スヘキ一ノ場合アルハ則チ唯一時(殊更ニ其國幼稚ナル時ニ於テノミ)外國ノ工業ヲ誘致スルノ望ミアリカ又タハ最モ其國ニ適當シタル所ノ外國工業ヲ誘致セシムル望ミアル時ノミ限ルナリ  
ヨル氏ハ深意ノアルアリテ保護税ハ其國幼稚ニシテ漸々將ニ進歩セント欲スル國ノ為ニ如何ニモ要月ニシテ一時已ヲ



得サルノ必分ナル折衷且ノ方法甚過其ノ概論スレハ獨  
リ姑息ニ於テハ導守ニキモノ法ニ於テストテ論セ  
レタルナリ故ニ右章條ニ充分了解セントナラハ學士  
セツト氏カ自由貿易及ニ保護論(一千八百七十八年刊行)ト云  
フ其著者ニ於テ右ヨリ氏ノ文ヲ解説セラルルヲ見ルニ今々貴社新聞ノ  
讀者ニ報道者欲スル其解説ノ大意ハ則テ左ノ如シ

ヨシ氏保護税ノ事ハ事情已ヨ得ナルカ為ニ強テ論セラレタ  
ルヲナレハ其款條ヲ陋執シテ保護税ヲ賦課スルハ思ハサ  
ルノ甚キヲ正ニ字リシトニ非スヤ夫レ保護税ヲ  
好ムハ旧染ノ汚俗ナルノミ

余輩コレヲ實際ニ從スルニ一個ノ工業ノミニ限リテ一時コレ  
ヲ保護スルハ尤モ六ヶ敷キモノニテ其保護ノ害ハ必テ他ノ  
工業ニ波及スルモノナリ學士セツト氏ハ其論説ノ引証ト

シテ合衆國ニ於ケル保護ヲ置キレ以來一百年ノ類例ヲ舉ゲ而  
シテ其論ハ論ニ於テ英國工業ノ經歷ヲ挙ケテ保護税ノ不可  
ナルヲ論セ、レタリ即チ英國工業ノ經歷タルヤハ往々保護主  
義者ノ論説ニ於テ或ル國ノ状態ヲ論スルニ當リテ製造工業ノ  
既ニ興起セ、レタリ又タ保護ニ於テ施セシ庇蔭ニ由リテ其國ノ  
工業大ニ隆盛ノ域ニ進ミシト云フ引証トセラル、トアレハ決  
シテ尤ルヲナク其保護ノ政略タル常ニ害ヲ生スルヲノミニシ  
テ有益ナリレ例アルヲ見サリシト云ハレタリ  
又タ合衆國ノ状態ヲ觀ルニ著明ナル保護政略ノミ多クシテ製  
造事業ノ隆盛ヲ撈取ラヌル為ニハ不適當ノ事ノミアルヲ目撃  
ス

合衆國ハ土地肥沃ニシテ人間ノ仕事ノ為ニ要用ナル粗物ノ種  
類ヲ夥多ニ産スルヲ以テ、トス世界第一ノ原炭産地ト云ミタル無

限ノ鐘山ヲ有シ聰明才力ノ人民鬱然タ  
略以來百有餘年其間稍々自由ノ如ク為  
年向々又々大ニ保護政略ニ嚴ニ為シタレハ  
其額數ハ非常ニ減縮セリ(食物ノ輸出ハ此限ニ非ラス但シ食物  
ハ保護ヲ置カレハナリ)而シテ其人民ハ他國政府カ其人民ニ  
課スルヨリモ一層重大ノ稅ヲ課セラレタリ  
譬ヒ合衆國ノ其固有ノ疆域中ニ於ケル棉花ノ產出額ハ全世界  
ニ於ケル其產額ノ過半ニ適スルモ合衆國ハ其固有產出額ノ只  
四分ノ一ニシテ以テ自カラ製シテ用ニ供ス而シテ其製造ノ用ニ供  
スル量ノ内ニ付テ只其一小分ノミ他國ニ輸出ス即チ其價直ハ  
一年ニ付キ一千一百万円ヲ越スナリ此額數ハ大英國ヨリ平均  
毎月輸出スル棉花ノ價直ト相同シキナリ  
自餘合衆國製造物ノ輸出ハ保護稅ヲ置カレタル石炭及ヒ鉄等

ノ輸出ト共ニ割合ニ小額ナリ而シテ譬ヒ米國ハ蒸氣船及ヒ帆  
走船ノ運賃ノ興スニ不自由ナク然ラ其材料(鉄石炭ノ西品ハ  
政府ノ法令ニ由リテ嚴ニ保護ヲ置ケリ)ニ付テ夥多ノ貯蓄有リ  
テ天福ヲ得タレハ又々驚クヘキ詰構ノ海港アルモ又々非常ノ  
廣袤ナル沿海線アルモ又々大胆ナル海辺ノ人民ヲ有スルモ其  
高賣船ハ殆ント又之スルト云フモ可ナルヘシ  
右ノ如キ奇怪ナル状態ノ原因ハ果シテ何レノ点ニ在ルヤト問  
ハ其返答ハ一語ヲ以テ為スヲ得ベシ即チ其原因ハ保護政略  
ニ由ルナリ夫レ保護政略ナルモノハ其保護ヲ置キタル商品ハ  
外國貿易ヲ窒壞スヘキナリ又々之レカ為ニ其保護ヲ置カレサ  
ル商品ニマシ害ヲ及ボシ其外國貿易ヲ停止シ且之レヲ妨  
害スヘキナリ且ツ其人民ニ重稅ヲ賦課シテ其國民ノ富饒進歩  
ヲ妨害退縮スヘキモノナリ

夫レ合衆國ノ右保護ナル一松ハラス隆成ルハ固ヨリ怪シム一  
キニ非ラカハナリ其隆成ニシテ富饒ノ増加スルハ之レヲ其政  
略タル保護法ニ帰スル一ヨラスレテ其疆土ノ廣大ニシテ山ヲ  
鑄海ヲ煮ルノ固益アリテ其愚策ニ保護法ノ害ヲ償フニ足ルノ  
ミナラス其利益タル筈ニ其害ノ上ニ出ツルコトアルニ帰ス一ナ  
ナリ

保護税論ノ誤リタルヤ余既ニ前投昏ニ於テ之レヲ開陳ス即チ  
外國ヨリ買得ヘキ物品ヲ強テ本国ニ製出スルハ是レ富國ノ原  
由ヲ棄ツルモノナリ又タ保護政略ハ外國貿易ヲ盛ニシテ為  
メニ生スルノ利益ヲ害スルノ失策タルヲ觀察セサルニ坐スル  
モノナリ若シ或レ一民カ或ル外國品ヲ買ハサルハ復タ外國  
人モ必ズ其巨産ヲ買フコトナケレハ(他國ニ産セサル一様特別  
ノ産物アル國ハ此限ニ非ラス)自國ニ國庫アルモ之レヲ賣捌キ

能ハカルナリ

若シ又タ一様特別ノ産物アルノ國トイヘ其國ガ其産物  
ノ代價ニ貨幣ノミヲ取リテ物品ヲ取ルコトヲ肯セサルハ外人  
ハ復タ成ル丈ケ其産物ヲ買入レズレテ別ニ他ノ國ニ向テ一層  
有益ノ貿易ヲ為スヘシ

前年「グラスゴ」在苗ノ米合衆國領事ガ其政府ニ送致シタル文  
ヲ見ルニ米國ノ保護税ヲ置キシヨリ英國ハ其製造品ヲ東洋ニ  
向テ輸出シ以テ穀物棉花ノ輸出ヲ増加シ合衆國市場ノ需要ニ  
依賴セサルノ勢アリト云ヘリ故ニ近年印度ニ飢饉ノ災ナカリ  
レナラハ印度大英間ノ穀物ノ貿易ニ於テ必ラス今日ノ状況ヨ  
リモ一層盛大ヲ致シタルヘシト信スルナリ  
近來「イム」新聞ニ掲載シタル「バ」船主「ク」ベ  
氏ノ投昏ヲ見ニ「疾」リ大西洋ヲ航シテ米國ニ至ルノ蒸汽

船ハ大抵空船ナリ是才一輸出スル物ノナキニ由ルモノナ  
リ既ニ然ルニハ必ラス其成果ハ其蒸気船江渡ノ運賃ヲ以テ悉  
ク米國ヨリ輸入スルノ物ニ負ハレメサルヲ得ヌ也此ハ  
パールヨリコウヨークニ来タリ~~非~~穀物ヲ積テコウヨークヨ  
リ川ノパール川ニ返ヘル其往復ノ運賃ヲ二封度ナリルリ  
ングトシ此運賃ノ半額ヲ以テ<sup>英國</sup>輸出ノ品ニ負ハレムルヲ能ハカ  
ルハ則チ往復ノ運賃ヲ以テ悉皆獨リ米國ヨリノ輸入品ニ負  
ハレメサルヲ得スト

右論ハ全ク此相ノ謬ナリナレ英國小麦ノ價格ハ獨リ米國市場  
ノ需要如何ニ由リテ高低スルモノニ非サルカ故ニ輸出品ナキ  
ヲ為ニ生スバリーパール川トコウヨークトノ間ノ運賃二十  
五セントナリ<sup>此</sup>輸入者ノ損ニ非ス<sup>テ</sup>米國農夫  
ノ損害タルニキヤ明ナリ此事實ニ由リテ近頃ノコウヨーク日

誌ヲミル人ハイリノイハ州ニ於ケル農夫ノ其穀物ヲ賣テ利  
益ナキヲ嘆スル所以ヲ知ルヘシ是レ則チ海岸ニ陸地運送ノ  
費用ト太西洋ヲ航シテ歐洲市場ニ至タル海上ノ運賃ノ甚々巨  
額ナルニ由ルモノナリ

又タ諸國ノ同ニ其產物ヲ易スルハ獨リ國內ニ於テノ其物  
品ヲ貿易スルヨリハ一層其商業ヲ廣クシ其熟練ヲ増シ財本ヲ  
有益ニ使用スルモノタルヤ亦タ明了ナリ是レ理ノ甚々見易キ  
モノニシテ今斯ニ喋々スルヲ要セカルナリ外國貿易ヲ盛ニス  
ル國ノ盛大ナルト内國都府ノ外ニ通商セカルモノ、其弱ナル  
モノヲ比較セハ自カラ暗覺スル所アルヘシ

余ノ今論スル所ノ主義ハ許多ノ实例ヲ舉グシトイヘ  
氏若シ是レ一層精密ニ論陳スルハ適ニ人定限ヲ超エ該論  
枝葉ニ亘リ冗長ニ過タカ故ニ之レヲ一日ニ讓ツルヘシ然ト

イハ氏今英國と甘貨身は歐ノ誤マリタ一ノ事其本國ノ新  
 紙ニ掲載スルアルヲ見シカ故ニ教言ノ評論ヲ陳セガルヲ得ス  
 余既ニ前月ノ投昏ニ於テ英國近來貿易ノ不景氣ハ全ク舊見ノ  
 信縮ニシテ其從來ノ貿易實ニ過キタルアリシモノ今遽ニ収縮  
 シテ現實ノ成果ヲ表スルモノニテ英國繁榮ノ實境ニ是リテハ  
 少シモ衰頹ノ標徴アルヲミガルトナ開味セリ  
 左ノ表ハイコノミス上新聞ヨリ引用スル所ノモノニシテ此主  
 義ニ關係スルモノナリ

地表

一千八百七十四年

綿糸	一ロリング	三ペニー
棉花	十一ロリング	三ペニー
英國毛布	二十一封度	〇
鐵塊	十二封度	五ロリング
英國錫	百二十二封度	〇
蘇格蘭鐵貿易 價錢	六ロリング	六ペニー
一千八百七十八年		
綿糸	〇	十ペニー五分ノ一
棉花	九ロリング	一ペニー半
英國毛布	十五封度	十ロリング
鐵塊	五封度	六ロリング
英國錫	七十二封度	十ロリング

蕪格蘭鉄貿易

四シリング

三シリング

一千八百七十

綿糸

〇

八シリング半

棉花

八シリング

英国毛布

十三封度

鉄塊

五封度

英国錫

六十五封度

蕪格蘭鉄貿易

三シリング

三シリング

右ノ表ニ猶ホ又タ石炭ヲ加フヘレ其價直ハ一千八百七十三年乃三七十年ニ於テハ二噸ニ付キ三十シリングナリシモノ今日ニ在テハ九シリングナリ

夫レ一千八百七十四年ノ貿易膚見ノ過大ト一千八百七十九年ノ天然實地ノ収縮トヲ以テ保護政畧或ハ自由貿易政畧ノ致ス所ト為スモノ、陋ノ甚シキモノニ非スマ  
夫レ物價ノ騰貴ハ一方ニ向テハ英国ノミテラス全世界ノ生産カヲ鼓舞スニハ又タ他ノ一方ニ向テハ消費ノ分量ヲ省減スルモノナリ物價騰貴ニ尋テ發生シタル物價ノ下落ハ則チ今日商業不景氣ノ原因タリ而シテ独リ英国ニ於テ其影響ノ甚シキモノハ其商業取引ノ大ナルカ故ナリ  
然リ而シテ現今余輩ノ屢々聞ク所ノ保護稅論ハ上ニ陳述シタル狀況ヨリシテ損害ヲ受ケタル商人ノ説ニシテ即チ今政府ヨリ特別ノ保護ヲ受ケテコトヲ持種ノ私利ヲ營セント欲スルモノ、説ナルヤ明ナリ  
英国ノ如キハ強ホ政府ノ保護ヲ得サルニ必チシモ外國ノ競

争ヲ恐ル、ヲ望マズ、低價ナル働カマリ、ハ賈ナシ、財料アリ、低價  
財本アリ、勞者ノ俸給ハ其適當ヲ得テ、才知アル商民モ亦タ  
虧ナカラサルカ故ニ、今日ノ不景氣ヲ以テ失望セス久シカラス  
シテ其商業ヲ盛大ニ恢復スルヲ待ツベシ夫レ今日ニ在テ減省  
シタル費用ヲ以テ商品ヲ生産スルヲ得ベキカ故ニ速ニ盛大ニ  
至ルベキヲ信スルナリ

日本ノ如キハ今其財政困難ノ極点ニ近ツケリ即チ合衆國ノ覆  
轍ヲ踐シカ<sup>將タ</sup>英國ノ实例ニ從フカノ点ニ在リ

日本ノ政事家ハ宜シク心ニ記スヘシ独リ保護稅ヲ以テ強テ工  
業ヲ内國ニ提起スルモ之レカ為メ理財上ノ利益ヲ生スル能ハ  
サルノミナシ、國民ノ今日既ニ不スル利益ヲ損込スルニ至ル  
ベシト告フハ則チ保護稅ヲ置クノ有害無利タルヲ辨明スルノ  
明論タルヲ

保護政畧ヨリ生スル避クベカラサルノ災害ニ関シテハ既ニ合  
衆國ノ實地經驗ニ関シテ「フォークセツト」氏ノ引用スル所ノ米國  
ノ有名ナルニ「<sup>一</sup>理財家ノ説ヲ有ルヘシ學士「サムチル」氏曰ク  
余輩ハ今ヤ強壯ナル独立ノ工業ヲ止メテ唯飢餓ニ迫リテ號泣  
スルノ嬰児ニシルト

「ウエルス」氏曰ク合衆國ノ保護稅ヲ主張スルノ論旨ハ其保護稅  
法ハ永久コレヲ置クヘシト云フニ非ラス外國ノ競争ニ向テ勿  
釋ナル内國ノ工業ヲ提起スル一時ノ政策ニ外ナラスト云フト  
イヘ、米國ニ於テ未ダ保護稅ノ果シテ利益アルノ例ヲ見ス却  
テ數年間其工業ノ保護ヲ得タル商人ノ保護稅額ヲ減少サレン  
トテ欲シ或ハ此減少ヲ建議シタルノ例ニナキニシモ非ラズ然  
ルニ保護稅論者ノ益高額ノ保護稅ヲ置カニ「<sup>一</sup>」ヲ要求シテ止マ  
サルニモ「<sup>一</sup>」ハ「<sup>一</sup>」ニ堪タリ

日本人ノ果シテ智クハ其固有ノ國產及テ生カシノ生産ヲ増  
加シ其歳入ヲ増シ而シテ紙幣交換ノ良法ノ立ツ以上ハ速ニ該  
二品ノ税ヲ免スヘシ而シテ其礦山事業ヲ興起スルニハ外国ノ  
財本ヲ以テ補助スヘシ而シテ必ラスヤ其國ニ応セサルノ外国  
事業ヲ設立ヤンカ為メ其國財ヲ濫用スヘカラス  
又々独リ歳入ノ目的ヲ以テ税ヲ輸入品ニ課スヘシトイヘ氏保  
護ノ目的ヲ以テ為ス可カラス其歳入ヲ増スノ目的ヲ以テ課税  
スルニハ現今ノ税ヲ稍増加スルモ此國ノ外国貿易上ニ於テ著  
シキ損害ハ生ヤサルナリ  
日本政府ハ勉テ宜シク施政上ノ費用ヲ節候シ歳入ノ餘贏ヲ作  
リ成ルヘキニ是ニ紙幣ヲ交換スヘシ夫レ紙幣價格ノ浮沈ハ之  
レヲ熟考スルハ是レ其國民ニ尤モ不正不公平ノ税ヲ課スルノ  
理ニ非ラスヤ拜具

一千八百七十九年六月二日

メルカトル



